

## 式 辞

正門脇の桜が新入生の新しい門出を祝福してくれるかの如く満開に咲き誇る今日の佳き日に、同窓会長 福田謙一郎 様、PTA会長 新井広宣 様、学校評議員・前PTA会長 樋口知子 様、同じく学校評議員・高南中学校校長 伊藤尚毅 様を始め、多くの御来賓と保護者の皆様方の御臨席を賜り、群馬県立高崎東高等学校第四十一回入学式を挙行できますことは、私ども教職員一同の大きな喜びであり、心より厚く御礼を申し上げます。

ただ今、晴れて入学を許可された第四十一期、百六十名の皆さん、入学おめでとうございます。教職員、在校生一同心から歓迎します。そして今日までお子様を様々な面で支えてこられた保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。教職員一同を代表して、心よりお祝い申し上げます。

新入生の皆さん、皆さんは前・後期一本化という新しい制度のもとで初めて行われた高校入試の試練を乗り越え、この日を迎えました。もちろん皆さん自身の努力があったことですが、これまで親身になって支えてくださった周囲の方々の思いがあったことを忘れてはなりません。ご家族をはじめ、お世話になった学校の先生、友人や先輩など、多くの人に支えられて今の自分があるはずです。感謝の気持ちを忘れず、思いやりの心を持った高校生になってもらいたいと思います。

さて、現在、我が国は人口減少社会を迎えています。総人口が、二〇五〇年には一億人を下回り、群馬県の人口も百九〇万人から百五二万人に減少すると推計されています。そのような中でも、東京など大都市への一極集中が続いており、地方のさらなる人口減少や地域衰退に大きな影響を与えていると言われています。現在、地方の様々な問題を解消すべく各地域で地方創生の取り組みが行われています。

本校では、そのような地方創生に取り組む「地域に貢献できる」人材の育成を目指した教育を行っています。令和2年度より『萌芽に芽ぶくプロジェクト』を開始し、「地域」をキーワードとした探究活動のより一層の充実を図っています。自己を知り、他者を知り、物事を客観的に見る資質の育成を図ります。そして、自ら進んで行動し、社会と共生する能力を育成していきたいと考えています。

変化が激しく将来の予想が困難な現在の社会においては、一人一人が主体性を持ち、自ら考え、判断し、責任をもって行動していく必要があります。群馬県では、「群馬県教育ビジョン」を策定し、人が誰しも生まれつき持っている、自分と社会をより良くしようとする意思や原動力を発揮して、自らの意志と選択で自ら学びをつくり、実際の行動に移せるようになるような教育を目指しています。新入生の皆さん、指示されたことをこなすだけでなく、自分で考えて、周囲の人と話し合い、自分で決めて、自分で動き出す、自律的な学習者を目指してください。

「鉄は鉄によって研がれ、人はその友によって研がれる。」という言葉があります。友とは、切磋琢磨しあいお互い成長するものです。高校での友は一生の友となるでしょう。様々な課題について、授業や部活動、学校行事等の場で、友と話し合い、協力して、よりよい解決策を探しながら行動していく高校生活を送って欲しいと願っています。

結びに、新たな道を歩み始めた新入生の皆さんが、高崎東高校での三年間で大きく成長されることを祈念するとともに、御来賓並びに保護者の皆様方におかれましては、今後の生徒達の活動・活躍を温かく見守っていただくとともに、本校教育活動に対する特段の御支援・御協力をお願い申し上げ、式辞といたします。

令和六年四月九日

群馬県立高崎東高等学校長 徳江 和彦